

# 身近な加湿の工夫による加湿効果と 加湿時の換気の影響評価に関する実験

## 01 技術開発の背景・目的

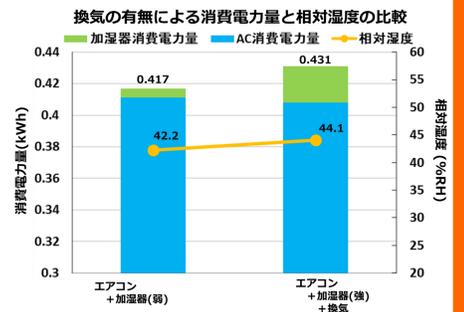
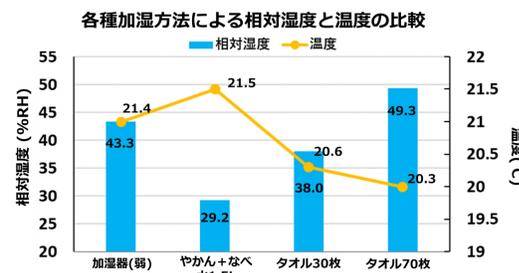
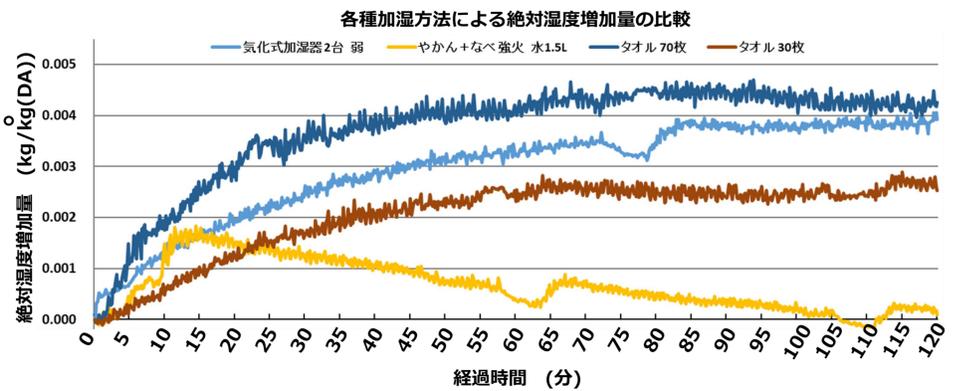
- 冬場における室内の湿度管理は、肌や喉の乾燥対策だけでなく、ウィルス飛沫対策としても重要視されています。
- そこで、エアコン暖房時に身近な工夫による加湿効果を実験によって検証しました。また、窓を開けて換気しながら加湿器を利用する場合の快適性や省エネ性についても検証しました。



中部電力ミライズの  
会員制WEBサービスで提供中

## 02 やかん・室内干しによる加湿効果と換気の影響

- 沸騰させたお湯で加湿する場合  
やかんと鍋でそれぞれ1.5ℓの水を沸かすことで、**20分間であれば加湿器と同程度の湿度**が得られます。
- 洗濯物の室内干しで加湿する場合  
2時間平均の評価では、**濡れたタオル30枚**を干すと**20.6℃, 38.0%RH**の加湿が可能となります。**70枚**を干すと**20.3℃, 49.3%RH**となり、**加湿器(21.4℃, 43.3%RH)**以上の効果が得られます。
- 換気をしながら加湿器を使用する場合  
加湿器の設定を「弱」から「強」に切り替えることで、窓を開けて換気しても40%RHを維持できましたが、**室温は1.1℃低下し、消費電力量は換気前より6.9%増加**することが分かりました。



## 03 社会実装に向けた取り組み

- お客様が楽しみながら省エネを実現していただくことを目的に、暮らしにおける豆知識について、省エネや快適性の効果を確認するための実験をおこなっています。
- その結果を家庭向けWEBサービス「カテエネ」のコラムに掲載し、情報発信しています。



## 04 研究者より

- 冬になると乾燥で喉や肌の調子が悪くなることや、風邪をひいて体調を崩すことがよくありました。私を含めて周りに加湿器を持っていない人が意外と多かったため、家でできるちょっとした工夫による加湿効果について実験してみました。ぜひ参考にしてください。

中部電力(株) 技術開発本部  
先端技術応用研究所



EaaSグループ 久保田担当